



図1 胼胝の形状の違い
A：垂直方向に強い圧がかかることが原因
B：足のずれが原因



図2 胼胝処置の実際
胼胝処置後、処置前には確認できなかった出血が認められ、局所に高い圧がかかっていたことがわかる

胼胝の形状や硬さの違い
胼胝の形状や硬さは、皮膚への圧力のかかり方の違いで変わります。垂直方向にかかる力によって生じる胼胝は厚くて硬く、丸い形をしています。それに対し、足のずれによって生じる胼胝は、薄く辺縁が不明瞭です¹⁾ (図1)。

硬くて丸い胼胝 (図1A) は、局所に強い圧力がかかりつづけるため、放置すると胼胝下に出血を伴い、潰瘍を形成するリスクが高くなります。潰瘍の発生を予防するためには、削ることで減圧し、緩衝材、足底板で局所にかかる圧力を分散させる必要があります (図2)。一方、薄く辺縁が不明瞭な胼胝 (図1B) は足のずれが原因で起こるため、



図3 運動神経障害による足の変形
B：PIP関節に靴が当たり、小さな傷を形成している

靴のサイズや履き方、靴内に置かれている足趾の形状などを確認し、症状が悪化しないよう対策を講じる必要があります。しかし、いずれも患者の生活環境や靴環境が変わらなければ、再発を繰り返します。

胼胝と鶏眼の見分け方

胼胝は、皮膚直下にある骨の固い土台の上でできるため肥厚しますが、鶏眼は皮膚の内側に向かって角質が増殖するため平らな形状をしています。また、鶏眼は円錐状に増殖した芯の先端が真皮まで入り込むと、神経を圧迫して痛みを伴います。胼胝も鶏眼も、窮屈な靴による圧迫や摩擦が原因で起こります。

運動神経障害による足の変形

運動神経が障害されると、足部内在筋と背屈筋の萎縮が起こり、ハンマートゥやクロウトゥと呼ばれる足趾の拘縮や変形が起こります (図3)。

さらに、足関節全体の可動域が減少するため、歩行時の背屈制限が起こり、荷重がかかる前足部に潰瘍が発生しやすくなります。

また変形は、荷重状態と非荷重状態で足の形状が異なるかどうかも重要なアセスメントの視点になります。非荷重状態のときは足趾がくの字に曲がり、荷重がかかると真っすぐ伸びる足は、歩行するたび靴の中で足が擦れて摩擦が生じます。荷重状態に関係なく屈曲している足は、靴の中で常に強い圧がかかるため、靴への対策が、より重要となります¹⁾。

足部の防御機能の喪失

神経障害がある患者は、足の防御機能が低下（もしくは消失）し、靴内部の圧迫感に気づかなくなり、靴が合っているかの判断ができなくなります。そのため、10gモノフィラメントを用いて、母趾底部や第1中足骨底部、第5中足骨頭底部など、胼胝や潰瘍が発生しやすいポイントを定期的に検査し、足の防御機能が喪失していないかを確認す